

# “应该”と“了”との共起について

## Co-occurrence of 'Yinggai' with 'le'

程 焱

CHENG Yan

**提要** 本文对汉语中的“应该”与“了”的共现进行了考察。结论如下：①“应该”与“了”共现时，“了”分为“了<sub>1</sub>”和“了<sub>2</sub>”，其中与谓语动词或动词短语相关联的“了”为“了<sub>1</sub>”，表示动作、行为的完成；而与整个句子相关联的“了”为“了<sub>2</sub>”，表示事态即将发生变化。②当“应该”与“了<sub>1</sub>”共现时，“应该”为表示根据情理推测某事态已经实现的“应该<sub>2</sub>”；而当“应该”与“了<sub>2</sub>”共现时，“应该”则为表示情理上必须做某事、理所应当做某事的“应该<sub>1</sub>”。另外，“应该<sub>2</sub>……了<sub>1</sub>”结构中的“了<sub>1</sub>”是不可或缺的，而“应该<sub>1</sub>……了<sub>2</sub>”结构中的“了<sub>2</sub>”则是可以省略的。

**キーワード：** “应该” “了” 共起関係 認識のモダリティ 評価のモダリティ

### 目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. “应该”と“了”とが共起する文における“了”について
4. “应该”と“了”との共起関係
5. おわりに

### 1. はじめに

現代中国語の能願動詞<sup>1)</sup> “应该”<sup>2)</sup> は、「①道理上…でなければならない」、「②状況が必ずそうだろうと推定する」(呂叔湘 1992:453-454) という二つの意味があるとされている。だが、“应该”を使う文には、ときに“应该”と“了”とが共起するものがある。

(1) 你也应该出去跑跑了。(あなたも外へ出て体を動かしてきなさいよ。)

《呂叔湘主編 1992:454》

(2) 他昨天动身的, 今天应该到了。(彼は昨日出発したから、今日は当然着くはずだ。)《呂叔湘主編 1992:454》

(1) の“应该”は「①道理上…でなければならない」という意味を表す“应该”であり、(2) の“应该”は「②状況が必ずそうだろうと推定する」“应该”である。一方、中国語の“了”には、“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の二つがあり<sup>3)</sup>、両者は異なる意味と用法をもつものとされている。

では、“应该……了”文<sup>4)</sup>において、“应该”の意味解釈は“了”の意味分類と何か関連をもっているのであろうか。また、“应该”と“了”とが共起する場合、“了”がなければ文が成り立つのであろうか。本稿は、“应该”の意味解釈は“了”の意味と関連があるのではないかと考え、用例収集資料<sup>5)</sup>をデータベースにし、その共起関係を明らかにすることを目的とするものである。

## 2. 先行研究

### 2.1 “应该”に関する先行研究

先行研究では、“应该”の意味は、2分類するのが基本となっている。

洪心衡 (1957:12-13) の「①表示情理或事势上应该怎么样的 (道理, 或いは形勢上どのようであるべきかを表す: 拙訳)」と「②“该、应该”还可以用作表示推测的意思 (“该、应该”は推测の意を表すのにも用いられる: 拙訳)」の二分類が“应该”研究の基礎となっており、劉月華ほか (1988)、呂叔湘 (1992) の分類もこれに重なっている。

劉月華ほか (1988:155-156) では、“应该”の意味・用法については、「①實際上或いは情理上での必要性を表す。已然の状況 (実際にもうそのようになっている状況) についても、未然の状況についても用いることができる」、「②予測や推測を表す」というように、二つのタイプに分類されている。

呂叔湘 (1992:453-454) では、“应该”は、「①「道理上…でなければならない」意味を表す」、「②状況が必ずそうだろうと推定する」という二つの意味があるとされている。そして、タイプ①の“应该”は、「単独で問いの答えに用いてもよい。否定は“不应该”」と説明されている。

また、玉地 (2006)、程焱 (2009) は日中対照研究の立場から“应该”を考察している。玉地 (2006:175-188) では、“应该”と“要”という中国語のモーダルマーカの文法化の経路を中心に考察が行われ、“应该”は、「べきだ」と「はずだ」に対応する主要なマーカであるとして指摘されている。程焱 (2009:137-151) では、“应该”は、評価のモダリティを表す“应该<sub>1</sub>”と認識のモダリティを表す“应该<sub>2</sub>”、二つの用法があるが、“应该<sub>1</sub>”

は評価のモダリティ形式「べきだ」、「なければならない」などに対応するのに対し、“应该<sub>2</sub>”は認識のモダリティ「はずだ」、「だろう」などに対応していると述べられている。

以上をまとめると、先行研究では、“应该”には二つのタイプがあり、タイプ①の“应该”は「道理上…でなければならない」意味を表し（以下、“应该<sub>1</sub>”と称する）、タイプ②の“应该”は「状況が必ずそうだろうと推定する」意味を表す（以下、“应该<sub>2</sub>”と称する）、とされているのがわかる。本稿も、“应该”の2分類にしたがって、“应该……了”文を考察する。

## 2.2 “了”に関する先行研究

### 2.2.1 “了”の分類について

“了”の分類に関するもっとも一般的な見方は、“了”の2分類である<sup>6)</sup>。以下、朱徳熙（1982）、劉月華ほか（1988）、呂叔湘（1992）、および卢英顺（1991）の分析について概観する<sup>7)</sup>。

朱徳熙（1982）は、“了”を動作の完了を表す動詞接尾辞の“了”と、新たな状況の出現を表す語気詞の“了”の二つに分けている。「北京語には動詞接尾辞“了”と同音の語気詞“了”が存在する。動詞接尾辞の“了”は文中にのみ現れ、文末には現れることはない。語気詞の“了”は文末にのみ現われ、文中に現われることはない」（朱徳熙 1982:88）と指摘されている。

劉月華ほか（1988）では、“了”は“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の二つに分けられ、“了<sub>1</sub>”は「動作・行為の完了を表し、動詞の後にしか表れない」（劉月華ほか 1988:289）とされ、“了<sub>2</sub>”は文末に置かれ、「主に『状況に変化が生じたこと』を表すが、さらに文を言い切りにしたり、『語気を表す』はたらきもある」（劉月華ほか 1988:301）と述べられている。

呂叔湘（1992）では、“了”には2種類あり、“了<sub>1</sub>”については「了<sub>1</sub>」は動詞の後ろに用い、主として動作の完了を表す」（呂叔湘 1992:239）とされ、“了<sub>2</sub>”については「了<sub>2</sub>」は文末に置き、主として事態に変化が起きたこと、あるいは今にも変化が起きることを認め、文を完結する働きを持つ」（呂叔湘 1992:239）と記述されている。

卢英顺（1991）では、“了”には“动词语后缀（動詞接尾辞）”の“了<sub>1</sub>”と、“语气词（語気詞）”の“了<sub>2</sub>”の2種類があるとされ、“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”とを区別する方法として、“变换法”（変換法）など5つの方法が提案されている。“变换法”については、「了<sub>1</sub>」一般位于“V”“O”之间，所以，将“VO 了”结构中的“了”移到“V”和“O”之间，看变换前后句子的意思有没有变化，没有变化的是“了<sub>1</sub>”，否则是“了<sub>2</sub>”（“了<sub>1</sub>”は普通“V”と“O”の間にある。従って、“VO 了”構造を“V 了 O”構造に置き換え、原文と意味が変わっているかどうかを観察する。置き換えても、文の意味が変わっていな

れば、“了<sub>1</sub>”であり、さもなければ、“了<sub>2</sub>”である。：拙訳」(卢英顺 1991:277)と説明されている。同文献では、“a. 你吃饭了没有?”と“b. 你吃了饭没有?”の“了”はいずれも“了<sub>1</sub>”であると指摘されている。

本稿も先行研究の2分類を踏襲し、“了”を“了<sub>1</sub>”(アスペクト助詞の“了”)と“了<sub>2</sub>”(語気助詞の“了”)の二つに分けて議論を進めていく。

### 2.2.2 “了<sub>1</sub>”の文法的意味について

“了<sub>1</sub>”の文法的意味をめぐるのは、“完成”(完了)説と“実現”(実現)説がある。

“了<sub>1</sub>”は「主として動作の完了を表す(吕叔湘 1992:239)」アスペクトマーカであるというのが、伝統的解釈である。朱德熙(1982)では、動詞接尾辞の“了<sub>1</sub>”の機能が「動作の完了を表すことにある」とされ、中国語の“了”は印欧語の動詞の過去時制語尾とは機能が異なり、「中国語の“了”は動作が完了状態にあることを表すだけで、動作が発生する時間とは無関係である」(朱德熙 1982:85)と説明されている。劉月華ほか(1988)でも、“了<sub>1</sub>”は動作・行為の完了を表すとされている。

一方、刘勳宁(1988)は、従来の“了<sub>1</sub>”が“完成”(完了)を表すというのは明らかに印欧語族の観点から中国語をとらえようとしたものであり、中国語に適していないとした上で、“了<sub>1</sub>”の文法的意味は「完了」ではなく、動作や状態が事実となること(“动作或者性状成为事实”(刘勳宁 1988:326))、すなわち「実現(“实现”)」のマーカであるとして主張している。それ以来、“了”の表すものは完了か実現かという議論が行われるようになった。

木村(1997)では、“了<sub>1</sub>”の文法的意味が「実現」ではなく、「完了」であるということについて詳細に論じられている。同文献は、刘勳宁(1988)の主張している「完了」とは「開始相に対立するアスペクト(すなわち終結相)を表すもの」であると述べ、自らの主張している「完了」とは概念が異なっているとしたうえで、「完了」とは「変化が『すでに実現した』こと、『実現済みである』ことを示す」と主張し、従来の「完了」という用語はまさにそうした意味で用いられてきたと指摘している。そして、同文献は、「実現」という用語における時間性の考慮のなさが問題であると指摘し、“了<sub>1</sub>”にはやはり「実現」という用語より、時間的段階性をよりよく反映した「完了」という術語をあてるべきだと主張している。

楊凱榮(2001)も「実現」説に反対する立場に立ち、“了<sub>1</sub>”は完了相であると考えている。

以上、述べたように、“了<sub>1</sub>”の文法的意味について、完了説と実現説があるが、両者それぞれの主張における「完了」の概念規定にずれが見られると考えられる。本稿は

“了<sub>1</sub>”の文法的意味は「完了」であると考え、そして、木村（1997）の解釈に従い、「変化がすでに実現したこと、実現済みであることを示す」という意味で「完了」という術語を用いることにする。

### 2.2.3 “了<sub>2</sub>”の文法的意味について

“了<sub>2</sub>”の意味について、呂叔湘（1992）では、“了<sub>2</sub>”は、主として事態に変化が起きたこと、あるいは今にも変化が起きることを認め、文を完結する働きをもつと記述されている。そして、同文献では、動詞の前に助動詞が付く場合、“了<sub>2</sub>”は事態に間もなく変化が起きることを表すと指摘されている（呂叔湘 1992:240）。

楊凱榮（2001）は、“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”を同一のマーカーと見なす立場に反対であり、“了<sub>2</sub>”は新しい事態の発生・変化を確認する語気助詞と見なしたほうが事実在即した捉え方であると指摘している。

刘勋宁（2002）では、文末の“了<sub>2</sub>”について、“了”的意义在于报道一个新事态（a new state of affairs）。这类句子的特征是出现在一个新事态即将出现之前（刘勋宁 2002：77-78）（“了”は新事態を表す。こうした文は新事態がまもなく出現する前に用いられる。：拙訳）と重要な指摘をしている。

本稿は、呂叔湘（1992）、楊凱榮（2001）、刘勋宁（2002）の指摘に従い、“了<sub>2</sub>”は新しい事態の発生・変化を確認する語気助詞であると考え、議論を進めていく。

## 3. “应该”と“了”とが共起する文における“了”について

本章では、先行研究を分析した上で、“应该……了”文における“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”を如何に区別するかについて探してみる。

呂叔湘（1992）では、“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”、それぞれの位置について、「動詞が客語をとるとき、“了<sub>1</sub>”は客語の前に置く」とされ、「動詞が客語をとるとき、“了<sub>2</sub>”は客語のうしろに置く」（呂叔湘 1992:239）と記述されている。

一方、卢英顺（1991:275）は、“a. 你吃饭了没有？”と“b. 你吃了饭没有？”の“了”はいずれも“了<sub>1</sub>”であると考えている。だが、呂叔湘（1992）の分類方法によれば、a文は“了<sub>2</sub>”、b文は“了<sub>1</sub>”ということになる。

では、果たしてどのように“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”を区別したらいいか。

刘勋宁（1990）は、“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の区別について重要な指摘をしている。

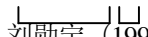
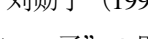
两个“了”虽然都与“事实”有关，但是词尾“了”只在句子结构内部起作用，它表明的只是谓词本身的一种情状。而句尾“了”不同，它联系着交际双方的关系，决定着句子的性质（句子与句子的关系）。

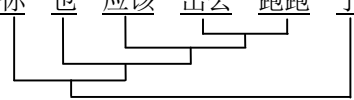
(語尾の“了”と文末の“了”はいずれも「事実」と関連があるが、語尾の“了”は文構造の内部で機能し、述語そのものの状況を表している。それに対し、文末の“了”は対話双方の関係を結びつけ、文の性質(文と文との関係)を決めている。:拙訳) (刘勳宁 1990:86)

劉月華ほか(1988)も刘勳宁(1990)と立場に近い。

構造レベルから言えば、文末にある“了<sub>2</sub>”の多くは文全体にかかるものであって、述語動詞(或いは形容詞)だけにかかるものではなく、以下のように分析すべきである。

他不头疼了。(彼は頭痛が治った。)(劉月華ほか 1988:309-310)

以下、、、および劉月華ほか(1988)の指摘にしたがって、冒頭に挙げた“应该……了”の用例を構造レベルから分析してみよう。

(1) 你 也 应该 出去 跑跑 了。  


(2) 今天 应该 到 了。  


(1)、(2)の構文分析からわかるように、(1)の“了”は、文全体にかかるもので、“出去跑跑”という動詞句だけにかかるものではない。したがって、(1)の“了”を新しい事態の発生を表す“了<sub>2</sub>”と判定できる。それに対して、(2)の“了”は述語動詞“到”にかかっており、「[应该 VP][了]」という構造ではなく、「[应该][VP了]」という構造である。したがって、(2)の“了”は、動作の完了を表す“了<sub>1</sub>”である。

次の用例を見てみよう。

(3) 上次接待过他的那个女警认出了他, 没等他问, 就说: “又是你呀, 找谢队? 他 应该回宿舍了。”(前回の女性警官がすぐに彼のことだと分かった。彼が聞く前に、もう「またあなたですか。謝隊長に会いたいなら、彼はもう寮に戻っているはずですよ」と言ってくれた。:拙訳)<sup>8)</sup> 《CCL: 当代\电视电影\冬至》

(3) ’ 又是你呀, 找谢队? 他 应该回了宿舍。(作例<sup>9)</sup>)

呂叔湘(1992:239)の記述によれば、(3)の“了”は目的語のうしろにあるので、“了<sub>2</sub>”となる。しかし、卢英顺(1991)の“变换法”(変換法)によると、「VO了」構造を「V了O」に置き換えても、文の基本的意味が変わっていないので、“了<sub>1</sub>”と認定すべきであろう。下記の構造分析からも(3)の文末の“了”は“了<sub>2</sub>”ではなく、“了<sub>1</sub>”であることが確認できる。

(3) 又是你呀，找谢队？他 应该 回 宿舍 了。



上記の構文分析からわかるように、(3)の“了”は“回宿舍”という動詞句にかかっており、「[应该 VP][了]」という構造ではなく、「[应该][VP 了]」という構造になっているので、動作の完了を表す“了<sub>1</sub>”である。

以上、“应该……了”文における“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の区別について探ってみたが、“应该……了”文を構造レベルから分析し、述語動詞（または動詞句）にかかるものは動作・行為の完了を表す“了<sub>1</sub>”であり、文全体にかかるものは新しい事態の発生を表す“了<sub>2</sub>”であると言えるのではないかと思う。こうした基準にしたがい、本稿の用例収集資料の“应该……了”文の“了”を分類すると、全用例944例のうち、“了<sub>1</sub>”が388例、“了<sub>2</sub>”が556例を占めている。下記の【表1】のようになる。

【表1】“应该……了”文における“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の内訳

“应该……了”文の“了”	出現数
“了 <sub>1</sub> ”	388
“了 <sub>2</sub> ”	556

#### 4. “应该”と“了”との共起関係

##### 4.1 “应该”と“了<sub>1</sub>”との共起関係

本節では、“应该”と“了<sub>1</sub>”との共起関係について考察してみる。

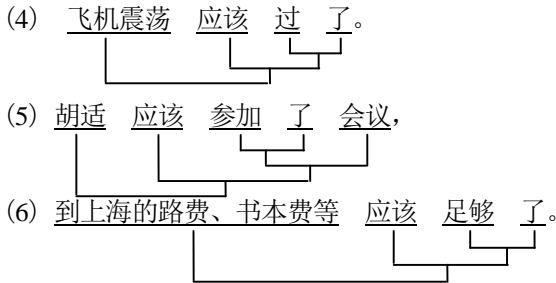
(4) 飞机震荡应该过了。(飛行機の揺れは終わったはずだ。:拙訳)《CCL: 現代\文学\钱钟书》

(5) 这是一九五二年十二月十一日胡适在台中农学院座谈会上的答词，见《胡适言论集》乙编74页。胡适既然说他是那一年改订新学制的起草人之一，而那一年九月二十五日至三十日教育部是召开了学制会议，那么胡适应该参加了会议，这似乎是没有问题了。(胡適氏は自分があの年の新学制改定の提唱者の一人だと主張している以上、あの年の9月25日から31日にかけて開かれた教育部の学制会議には、胡適氏は出席しているはずである、これは異議ないことであろう。:拙訳)《CCL: 当代\报刊\读书\vol-141》

(6) 索朗德吉是受资助的学生之一，她在今年的高考中以优异成绩考上了上海外国语大学德语专业。她说，这4000元解了燃眉之急，到上海的路费、书本费等应该足够了。(前略)彼女は、この4000元で大変助かり上海までの交通費や書籍代などはこれで十分はずだと述べていた。:拙訳)《CCL: 当代\应用文\新闻\

新华社 2004 年新闻稿 003》

まず、(4)、(5)、(6) “了” がアスペクト助詞の “了<sub>1</sub>” であることは以下の構文分析から確認できる。



上記の構文分析からわかるように、(4)、(5)、(6) の “了” はいずれも述語動詞にかかるものであり、「[应该 VP][了]」という構造ではなく、「[应该][VP 了]」という構造になっている。したがって、“了” は「完了」を表す “了<sub>1</sub>” である。

次に、(4)、(5)、(6) における “应该” の意味を見てみよう。(4)、(5)、(6) の “过了” “参加了会议” “足够了” はいずれも完了していること、つまり已然の事態である。(4) では、発話の時点において “过” という動作が完了していると話し手が確信している。(5) では、“那一年九月二十五日至三十日” という時点において “参加会议” という動作が必ず表現されたと話者が推量している。(6) では、“足够” という状態が実現済みであると話者が確信している。いずれの文においても、“应该” は認識のモダリティを表す “应该<sub>2</sub>” となる。「状況が必ずそうだろうと推定する」という意味を表している。

前掲の【表 1】のとおり、本稿の用例収集資料の “应该……了” 文 944 例のうち、“了<sub>1</sub>” の用例が 388 例を占めているが、この 388 例の “应该……了<sub>1</sub>” 文における “应该” の意味を観察すると、“应该” はすべて「状況が必ずそうだろうと推定する」という意味を表す “应该<sub>2</sub>” であり、「道理上…でなければならぬ」意味を表す “应该<sub>1</sub>” が 1 例も見当たらないことが確認できた。すなわち、用例収集資料を用いて検証した結果、“应该<sub>1</sub>” + “了<sub>1</sub>” という組み合わせの例が皆無であることが明らかになった。

最後に、(4)、(5)、(6) の “了” がなければ文が成り立つかどうかを見てみよう。

- (4) ’ ? 飞机震荡应该过。(作例)
- (5) ’ ? 胡适既然说他是那一年改订新学制的起草人之一，而那一年九月二十五日至三十日教育部是召开了学制会议，那么胡适应该参加会议，这似乎是没有问题了。(作例)
- (6) ’ ? (略) 她说，这 4000 元解了燃眉之急，到上海的路费、书本费等应该足够。

(作例)

(4) ' ~ (6) ' に示されたように、“了”がなければ、文そのものが不自然になる。この場合の“了”が述語動詞にかかるものであり、述語動詞の状況を表しているので、必要不可欠であると考えられる。

以上、論じたように、“应该”は、“了<sub>1</sub>”と共起する場合、認識のモダリティを表す“应该<sub>2</sub>”であり、已然の事態、実現ずみのことについての確信の強い推量を表す。また、“应该<sub>2</sub>……了<sub>1</sub>”文では、語尾の“了<sub>1</sub>”が述語動詞にかかるもので、述語動詞の状況を表しているので、必要不可欠であることもわかった。

以下、“应该<sub>2</sub>……了<sub>1</sub>”文の例をあげておく。

(7) 尽管鲍威尔在伊拉克问题国际会议结束后举行的记者招待会上说,他同沙雷只是谈到叙利亚应该采取更加具体的措施加强叙伊边境的安全,但关心美叙关系的人士认为双方应该讨论了更多敏感问题。(〈前略〉しかし、アメリカ・シリアの両国関係に注目する関係筋は、両氏はそれ以外にもさまざまな関連問題について議論をしていたと見ている。:拙訳)《CCL:当代\应用文\新闻\新华社2004年新闻稿004》

(8) 星星应该听到了他的箫声,星星应该偷偷来到他的脚旁。可是星星一直没有来到。(星星には彼の蕭声が聞こえたはずであり、星星はこっそり彼の足元にやってくるはずだ。〈略〉:拙訳)《CCL:当代\文学\余华》

(9) 沛沛应该已经下课了,她通常自己乘公共汽车回家里来,要不是下雨天,我是不去接她放学的,(略)。(沛沛はもう授業が終わっているはずだ。彼女はいつも自分でバスに乗って帰る。雨などでなければ、出迎へは行かないことにしている。:拙訳)《CCL:当代\文学\梁凤仪》

(10) “一个下午,你走遍了台北市,应该相当饿了!”(たったこの半日で台北市を歩き回って、きっとお腹が空いたでしょう。:拙訳)《CCL:当代\文学\琼瑶》

#### 4.2 “应该”と“了<sub>2</sub>”との共起関係

本節では、“应该”と“了<sub>2</sub>”との共起関係について考察してみる。

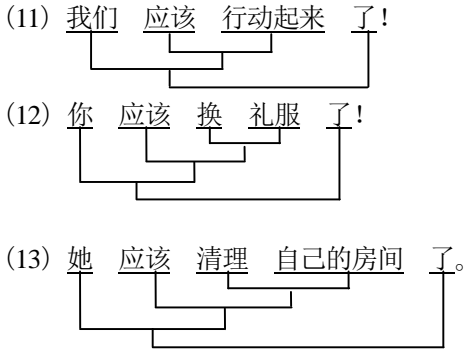
(11) 为了我们的孩子,我们应该行动起来了!(われわれの子供のために、われわれは行動に移すべきである。:拙訳)《人民日报2000.11.29》

(12) 昨晨起床,我太太说“Y. T. 你应该换礼服了!”(昨日の朝、起きた後に家内は「Y.T.あなたはそろそろ式服に着替えなきゃ」と言っていた。:拙訳)《CCL:現代\文学\散文1》

(13) 我的女朋友一再告诫她的小女儿,她应该清理自己的房间了。(友人は彼女の末

っ子の娘に、自分の部屋を片付けなければならないと何回も注意していた。  
拙訳)《CCL：当代\报刊\读者\读者合订本》

まず、(11)、(12)、(13)の文末の“了”が語気助詞の“了<sub>2</sub>”であることは以下の構文分析から確認できる。



上記の構文分析に示されるように、(11)～(13)の“了”はいずれも文全体にかかるものであり、新しい事態の発生を示す“了<sub>2</sub>”である。

次に、(11)～(13)における“应该”の意味を見てみよう。(11)～(13)の文には以下の二つの共通点がある。①“行动起来”“换礼服”“清理自己的房间”はいずれもまだ実行されていない事態、つまり未然の事態である。②それぞれの事態を実現するのが妥当であるという話し手の評価を表している。したがって、“应该”は、評価のモダリティを表す“应该<sub>1</sub>”であり、「道理上…でなければならない」意味を表している。

第3章の【表1】に示したように、用例収集資料の“应该……了”文全用例944例のうち、“了<sub>2</sub>”の用例が556例を占めているが、この556例の“应该……了<sub>2</sub>”文における“应该”の意味を観察すると、“应该”はすべて「道理上…でなければならない」という意味を表す“应该<sub>1</sub>”であり、「状況が必ずそうだろうと推定する」という意味を表す“应该<sub>2</sub>”が1例も見当たらないことが確認できた。すなわち、本稿の用例収集資料には、“应该<sub>2</sub>” + “了<sub>2</sub>”という組み合わせの例が皆無であることが明らかになった。

最後に、(11)～(13)の“了”がなければ文が成り立つかどうかを見てみよう。

- (11)′ 为了我们的孩子，我们应该行动起来!
- (12)′ 昨晨起床，我太太说“Y. T. 你应该换礼服!”
- (13)′ 我的女朋友一再告诫她的小女儿，她应该清理自己的房间。

(11)′～(13)′に示されたように、“了”がなくても、文そのものが成り立つのである<sup>10)</sup>。では、“了”がある場合とない場合の違いはどこにあるのであろうか。次の二つの用例を見てみよう。

(14) “你现在成了家，应该靠自己挣钱过活了，也免得别人说闲话。我把你养到这样大，又给你娶了媳妇，总算尽了我做父亲的责任。以后的事就要完全靠你自己。

(略)”(「おまえは結婚したんだから、自分で稼いで生活しなければいけない。人の口はうるさいからな。わたしはおまえをこれまでに育て、嫁ももらってやった。父親としての責任は果たしたわけだ。これからのことはみんな自分でしなければいけない)」《中日対訳：家》

(14)’ 应该靠自己挣钱过活。(作例)

(15) 两天的败祸再加一条严实的锁链，姜静宜的内心似乎变得平静了一些。第三天早晨起得很早，起来就去生煤球炉子。接连两天都是娘和姐姐做家务，今天她应该多做一些了。(二日にわたる呪詛と一本の頑丈な鎖、それで静宜の気は済んだかみえた。三日目の朝早くおきて、すぐ豆炭コンロをおこす。二日つづけて母と姉に任せた家事を今日は自分が引き受けなくてほ。)《中日対訳：活动变人形》

(15)’ 今天她应该多做一些。(作例)

(14)’、(15)’をそれぞれ(14)、(15)と比較するとわかるように、“了<sub>2</sub>”がないと、今現在の状態、事態しか表さず、状態の変化を表すことができない。例えば、(14)’では、“应该靠自己挣钱过活”は今現在の事態を表すのみであり、それ以前の事態との変化は言及されておらず、着眼点ではない。しかし、“了<sub>2</sub>”がつくと、“应该靠自己挣钱过活了”という文は、これから新しい事態が起こる、事態に間もなく変化が起きるという意味が付加される。

以上、論じたように、“应该”が“了<sub>2</sub>”と共起する場合、“应该”は評価のモダリティを表す“应该<sub>1</sub>”であり、ある「未然」の事態について、その事態を実現するのが当然だ、そうしなければならないという判断を表している。実際、本稿の用例収集資料を用いて検証した結果、“应该……了<sub>2</sub>”文における“应该”はすべて「道理上…でなければならない」という意味を表す“应该<sub>1</sub>”であり、“应该<sub>2</sub>”+“了<sub>2</sub>”という組み合わせの例が皆無であることが明らかになった。また、“应该”が“了<sub>2</sub>”と共起する場合、文末の“了”がなくても文が成り立つが、“了”がつくと、事態に間もなく変化が生じるという意味が付加される。

以下、“应该<sub>1</sub>……了<sub>2</sub>”文の例をあげておく。

(16) 前车之辙，后车之鉴，诸如类似的事例应该引起我们的重视了!(〈前略〉このようなことについて、われわれは重要視しなければならないのだ。：拙訳)《CCL：当代\报刊\1994年报刊精选》

(17) 山岗将她扶起来，说：“你应该去休息了。”(山岡さんが彼女を助け起こして、

「もう休まなきゃ」と言った。: 拙訳)《CCL: 当代\文学\余华》

- (18) 终于, 上尉看了看自己的手表, 说道: “真对不起, 我应该向你们告辞了。”(大佐は自分の腕時計を見て、「申し訳ない。そろそろ失礼します」と言った。: 拙訳)《CCL: \当代\文学\礼平》

## 5. おわりに

本稿では、中国語の“应该”と“了”とが共起する文について考察を加えてみた。その結果、以下の2点がわかった。

(i) 中国語の“应该”と“了”とが共起する文における“了”は、“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の2種類がある。述語動詞(または動詞句)にかかる“了”は動作・行為の完了を表す“了<sub>1</sub>”であり、文全体にかかる“了”は新しい事態の発生を表す“了<sub>2</sub>”である。

(ii) “应该”と“了<sub>1</sub>”とが共起する場合、“应该”は認識のモダリティを表す“应该<sub>2</sub>”であり、「已然」の事態、実現ずみのことについての確信の強い推量を表す。そして、“应该<sub>2</sub>……了<sub>1</sub>”文において、“了<sub>1</sub>”が必要不可欠であることもわかった。一方、“应该”と“了<sub>2</sub>”とが共起する場合、“应该”は評価のモダリティを表す“应该<sub>1</sub>”であり、ある「未然」の事態について、その事態を実現するのが当然だ、そうしなければならないという判断を表している。そして、“应该<sub>1</sub>……了<sub>2</sub>”文において、“了<sub>2</sub>”がなくても文が成り立つが、“了”がつくと、事態に間もなく変化が生じるという意味が付加される。

実際、本稿の用例収集資料を用いて検証した結果、“应该<sub>1</sub>”+“了<sub>1</sub>”という組み合わせ、そして“应该<sub>2</sub>”+“了<sub>2</sub>”という組み合わせの例が皆無であることも明らかになった。

## 注

- 1) 中国語において、能願動詞(助動詞)の処理は各家によりかなり相違がある。品詞名だけをみても、洪心衡(1957)では、“能愿动词”、丁声树(1961)では“助动词”、呂叔湘(1992)では“助动词”、劉月華ほか(1988)では“助动词”または“能愿动词”という名称が冠されている。本稿では洪心衡(1957)の術語に従い、能願動詞(“能愿动词”)と呼ぶ。
- 2) “应该”・“该”・“应当”は互いの意味が近く、用法が似ているが相違があるとされている(呂叔湘 1992:454)が、本稿では“应该”のみを考察対象とする。
- 3) 例えば、朱德熙(1982)、呂叔湘(1992)、劉月華ほか(1988)などはいずれも“了”を“了<sub>1</sub>”(“动态助词”(アスペクト助詞))と“了<sub>2</sub>”(“语气助词”(語気助詞))の二つに分けている。ただし、用語に関しては、朱德熙は“了<sub>1</sub>”を“动词后缀”(動詞接尾辞)という。
- 4) 本稿では、“应该”と“了”とが共起する文、つまり、①“应该”+動詞+“了”、②“应该”+動詞+目的語+“了”、③“应该”+動詞+“了”+目的語、この三つの文を“应

该……了”文と呼ぶことにする。なお、本稿では、「補語寄りの“了<sub>1</sub>”(劉月華ほか1988:300)」を考察対象から外すこととする。

- 5) 『CCL 语料库』(北京大学中国語言学研究中心 CCL コーパス)、『現代汉语语料库』(関西大学 現代中国語コーパス)、および『中日対訳コーパス』(北京日本学研究中心)から“应该……了”文の用例が944例収集された。これらの用例を「用例収集資料」と呼ぶ。用例の出典や略号については文末の「用例資料」を参照。
- 6) 金立鑫(1999)では、“了”の4分類が提唱され、「我们把动词后的非补语性质的“了”记作“了<sub>1</sub>”;把补语性质的“了”记作“了<sub>2</sub>”;把句尾的“了”记作“了<sub>3</sub>”;语气词“了”记作“了<sub>4</sub>”(金立鑫1999:3)」と結論づけられているが、こうした“了”の4分類は“了”の2分類の細分類であると考えられる。
- 7) ほかには、刘勳宁(1988)、杉村(2000)、楊凱榮(2001)なども“了”の2分類の立場をとっている。
- 8) “他应该回宿舍了”という文は文脈によっては別の解釈が出てくることがある。例えば“他应该回宿舍了, 小李一定等急了”というような文脈の場合、「彼はもう寮に帰らなければならない、李さんに待たせているから」という意味になる。“应该……了”文の多義性に関する議論は別稿に譲りたい。
- 9) 実際、下記のような用例が採集されている。「结束了和徐琪聊天的秦生躺在床上辗转反侧, 已经是第无数次的在想文杉这时候在干什么了, 时间已经不那么早了, 文杉应该回了宿舍, 也许正在和寝室的人聊天, (略)。(等到我们学会飞)」
- 10) 卢英顺(1991:277)では、文末の“了”が削除されても文が成り立ち、そして、文の意味が基本的に変わっていない場合、その“了”は“了<sub>2</sub>”であると指摘されている。

## 参考文献

- 木村英樹(1997)「動詞接尾辞“了”の意味と表現機能」『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』pp.157-179 東方書店
- 金立鑫(1999)〈現代汉语“了”研究中“语义第一动力”的局限〉《汉语学习》第5期 pp.1-5
- 洪心衡(1957)《能愿动词・趋向动词・判断词》pp.1-20 新知识出版社
- 朱德熙(1982(杉村博文・木村英樹訳(1995)))『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説一』白帝社
- 杉村博文(2000)「“了”の意味と用法」『中国語』2000年3月号 pp.60-62 内山書店
- 玉地瑞穂(2006)「中国語のモーダルマーカの文法化に関する一考察 —「应该 yinggai」と「要 yao」の例—」『高松大学紀要』45 pp.175-188 高松大学
- 程焱(2009)「能願動詞“应该”に対応する日本語表現について」『日中言語対照研究論集』11 pp.137-151 日中対照言語学会
- 丁声树(1961)《現代汉语语法讲话》pp.89-93 商务印书馆

- 楊凱榮 (2001) 「中国語の“了”について」『「た」の言語学』pp.61-95 ひつじ書房
- 刘勛宁 (1988) 〈现代汉语词尾“了”的语法意义〉《中国语文》总206期 pp.321-330
- 刘勳宁 (1990) 〈现代汉语句尾“了”的语法意义及其与词尾“了”的联系〉《世界汉语教学》总第12期 pp.80-87
- 刘勳宁 (2002) 〈现代汉语句尾“了”的语法意义及其解说〉《世界汉语教学》总第61期 pp.70-79
- 劉月華ほか著 相原茂監訳 (1988) 『現代中国語文法総覧(上)』くろしお出版
- 卢英顺 (1991) 〈谈谈“了1”和“了2”的区别方法〉《中国语文》总第223期 pp.275-278
- 呂叔湘主編 (1992 (牛島徳次・菱沼透監訳 (2003))) 『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』東方書店

### 用例資料

- 《CCL: ~》 CCL 语料库 北京大学中国語学研究中心 CCL コーパス  
[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus)
- 《人民日報》 現代漢語語料庫 関西大学現代中国語コーパス  
<http://china.fl.kansai-u.ac.jp>
- 《中日対訳: ~》北京日本学研究中心 (2003) 『中日対訳コーパス』第一版